

作成日: 2014/04/01

改訂日: 2022/12/06 (第3版)

# 安全データシート

## 【1. 化学品及び会社情報】

製品名	NC エポキシプライマー 主剤
供給者の会社名称	二瀬窯業株式会社
住所	〒820-0044 福岡県飯塚市横田 669
担当部署	技術部 本社技術課
電話番号	0948-22-0447
推奨用途	建築・土木用プライマー

## 【2. 危険有害性の要約】

### GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼損傷性/眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反覆暴露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分2
	オゾン層への有害性	分類できない

### GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険・有害性情報	皮膚刺激 強い眼刺激 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 水生生物に毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性
注意書き	
予防策	子供の手の届かないところに置くこと。 使用前にラベルをよく読むこと。 使用前にすべての安全説明書を入手し、読み、従うこと。 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 容器を密閉しておくこと。 容器を接地しアースをとること。 防爆型の電気／換気／照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 妊娠中および授乳期中は接触を避けること。 取り扱い後はよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面／聴覚保護具を着用すること。 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
緊急処置	すぐに救急の医療処置を受けること。 医療処置を受けること。 暴露またはその懸念がある場合は、医学的助言を求めること。 気分が悪いときは、医療処置を受けること。 特別な処置が緊急に必要である。 特別な処置が必要である。 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ばく露又はその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。 皮膚刺激が生じた場合：医療処置を受けること。 眼の刺激が続く場合：医療処置を受けること。 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 火災の場合：消火するために5項の使用可能消火剤を使用すること。 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。接触部位を水また

	はシャワーで洗うこと。
	眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後の洗浄を続けること。
保管	施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
廃棄	内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄する。

**【3. 組成, 成分情報】**

化学物質・混合物の区別	二液性エポキシ樹脂系接着剤 主剤
化学名又は一般名	エポキシ樹脂
組成及び含有量, 成分量	

化学物質名	含有量(%)	CASNo.	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂	10~20	25068-38-6	7-1279 7-1283
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂	5~10	9003-36-5	7-1285
アクリル共重合体	15~25	—	登録あり
水	50~60	7732-18-5	—
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタート)	0.1~1.0	84-74-2	3-1303

**【4. 応急措置】**

吸入した場合	蒸気, ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときには、医師に連絡すること。 蒸気, ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にすること。直ちに医師の手当てを受けること。 呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。直ちに医師の手当てを受けること。 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	付着物を布にて素早く取り除く。 直ちに汚染された衣服を脱ぎ去ること。 大量の水及び石鹼又は被扶養の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤, シンナーは使用しないこと。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合, 気分が悪いときには医師の診察/手当を受けること。 付着物を拭き取り、水と石鹼でよく洗う。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後の洗浄を続けること。まぶたの裏まで完全に洗うこと。直ちに医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。

嘔吐物は飲み込ませないこと。

医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

多量の水を飲ませて吐かせる。自発的に嘔吐できる場合は、さらに水を与えて吐かせる。ただし、無理に吐かせようとしてはならない。被災者に意識がない時には何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。いずれの場合も、直ちに医師の手当てを受ける。

## 【5. 火災時の措置】

適切な消火剤	初期・小規模火災: 粉末消火剤, 二酸化炭素, 耐アルコール性泡消火剤, 散水 大規模火災: 水噴霧, 耐アルコール性消火剤
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の危険有害性	過熱により容器が爆発する恐れがある。 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により蒸気が空気と爆発性混合気を生成するおそれがある。 屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。
特有の消火方法	水溶性のため、引火点が極めて低い。 危険でなければ周囲から可燃性のものを素早く取り除く。 指定の消火剤を使用する。 消火活動は風上より行う。 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。 水の使用は火災を拡大し危険な場合がある。 火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。 消火作業の際には適切な空気呼吸器, 化学用防護服を着用する。 消火作業は風上から消火作業を行う。

## 【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具(手袋, 保護マスク, 前掛け, ゴーグル等)を着用する。  周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。 付近の着火源, 高温体及び可燃物を素早く取り除く。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。 密閉された場所に入る前に換気する。 風下の人を避難させる。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境中に影響を及ぼさないように注意する。
封じ込め及び浄化方法と機材	漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。 付着物, 廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。 衝撃, 静電気等で火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。 乾燥砂, 土, その他の不燃性のものに吸収させて回収する。 大漁の場合には盛り土で囲って流出を防止する。

回収物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。

ヘラ等をかきとり、あるいは砂、ウエス等に吸収させて密閉できる容器に回収する。残りは拭き取る。

## 【7. 取扱いおよび保管】

### 取扱い

#### 技術的対策

換気のよい場所で取り扱う。容器はその都度密閉する。

周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

作業中は、帯電防止型の作業衣、靴を使用する。

工具は火花防止型のもを使用する。

火気厳禁、喫煙、裸火、熱又は発火源を避ける。

吸入、眼や皮膚への接触を防ぐため、適切な保護具を使用する。

局所排気装置の設置等、通気の良い作業場所で使用する。

正しい作業実施法を定めて遵守する。

#### 注意事項

使用済みのウエス、塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまで水に漬けておく。

皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、眼に入らぬように保護具を着用する。

取扱い後は手・顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

こぼしたり飛散しないようにし、蒸気やミストが発生する場合は局所排気装置を設置する。

強酸、脂肪族アミンと反応するので、十分注意する。

混合バッチスケールが大きくなるに従って発熱温度も高くなるので、十分注意する。

使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。

#### 保管

消防法等の関連法規に基づき保管する。

日光の直射を避け、湿気、火気・熱源のない冷暗所に保管する。

盗難防止のため施錠保管する。

子供の手の届かないところに保管する。

混触禁止物質：強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸との混触を避ける。

## 【8. ばく露防止及び保護措置】

### 管理濃度・許容濃度

設定されていない

### 設備対策

屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とする。

タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

作業場所、休憩所等には、洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設置する。

### 保護具

#### 呼吸用保護具

有機ガス用防毒マスクを使用する。

密閉された場所では送気マスクを使用する。

#### 手の保護具

有機溶剤又は化学薬品が浸透しない手袋を着用する。

#### 眼、顔面の保護具

取扱いには保護メガネ(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

長袖の衣服を着用し、必要に応じ長靴、耐油性の合成樹脂又は、ゴム製の前掛け、腕力

## 衛生対策

バー等の皮膚を直接暴露させないような衣服をつけること。また、化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

取り扱い後は、よく手を洗う。

## 【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態	液状
色	白色
臭い	樹脂臭
融点／凝固点	データなし
沸点または初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	水含有性のためデータなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
粘度(動粘性率)	データなし
溶解度	水に易溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
比重(相対密度)	1.05(20°C, 代表値)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 【10. 安定性及び反応性】

反応性	データなし
化学的安定性	常温、常圧の通常の取扱いでは安定である。 流動、攪拌などにより静電気が発生することがある。
危険有害反応性の可能性	有機溶剤類が高容量で含有されているため、強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 強酸化剤, 強ルイス酸, 強無機酸, 強無機塩基, 有機塩基(特に1, 2級の脂肪族アミン)と激しく反応する。
避けるべき条件	高温加熱。 直射日光下での放置。
混触危険物質	強酸化剤, 強ルイス酸, 強無機酸, 強無機塩基, 有機塩基(特に1, 2級の脂肪族アミン)
危険有害性のある分解生成物	アルデヒド, 酸, 有機物。 燃焼等により、CO, 低分子ポリマー等の有毒性ガスが発生する。
その他	セットの硬化剤(アミン類)と反応する。

【11. 有害性情報(危険有害性物質を対象)】

化学物質名	急性毒性			
	経口(LD50)	経皮(LD50)	吸入(蒸気)(LC50)	吸入(粉塵, ミスト)
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂	区分に該当しない (11400 mg/kg)	分類できない (>1600 mg/kg)	分類できない	分類できない
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	区分に該当しない (8000 mg/kg)	区分に該当しない (>4000 mg/kg)	分類できない	区分に該当しない (15.68 mg/l)

化学物質名	皮膚腐食性 /刺激性	眼損傷性 /眼刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂	区分 2	区分 2B	分類できない	区分 1
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂	区分 2	区分 2A	分類できない	区分 1
水	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	区分 1

化学物質名	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(液状)	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂(液状)	分類できない	分類できない	分類できない
水	情報なし	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	分類できない	分類できない	区分 1B

化学物質名	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	誤えん有害性
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂	分類できない	分類できない	分類できない
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂	分類できない	分類できない	分類できない
水	情報なし	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	区分 3 気道刺激性	区分 1 呼吸器	分類できない

【12. 環境影響情報】

	水生環境有害性 短期(急性)	水生環境有害性 長期(慢性)
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(液状)	区分 1	区分 1
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂(液状)	区分 2	区分 2
水	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	区分 1	区分 2

化学物質名	生態毒性	残留性・分解性
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(液状)	甲殻類(オオジシロ)EC50(48h)1.7 mg/L	急速分解性がない (BOD による分解度 0%)
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂(液状)	情報なし	情報なし
水	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	魚類(アメリカナマス)LC50(96h)0.46 mg/L	急速分解性あり(BOD 分解度 69%)

化学物質名	生物蓄積性	土壌中の移動性	環境基準	オゾン層への有害性
ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(液状)	生物蓄積性が低い (BCF $\leq$ 42)	情報なし	情報なし	情報なし
ビスフェノール F 型エポキシ樹脂(液状)	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし
水	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし
ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタレート)	生物蓄積性が低い (BCF=176)	情報なし	情報なし	分類できない

### 【13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物	<p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体その処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。</p>
汚染用器及び包装	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。</p>

### 【14. 輸送上の注意】

国際規制	
国連番号	3082
国連品名	環境有害物質(液体)
国連分類	9 環境有害物質
容器等級	III
環境有害性	海洋汚染物質の該当
陸上輸送	消防法, 労働安全衛生法, 毒物劇物取扱法に該当する場合は、各法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
特別な安全対策	<p>取り扱い及び保管上の注意の候の一般注意事項に従う。</p> <p>容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積込み、荷崩れ防止を確実にすること。</p> <p>火気厳禁, 天地無用</p>

### 【15. 適用法令】

消防法	非危険物(水系)
労働安全衛生法	<p>名称等を表記すべき有害物(法 57 条の 1, 施行令第 18 条の 2 別表第 9)</p> <p>(ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)</p> <p>名称等を通知すべき有害物(法 57 条の 2, 施行令第 18 条の 2 別表第 9)</p> <p>(ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)</p> <p>変異原性が認められた既存化学物質(平成 5 年 5 月 17 日付け基発 312 号)</p> <p>(ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(液状))</p>



労働基準法	疾病化学物質 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂, ビスフェノール F 型エポキシ樹脂)
化管法 (PRTR 法)	第一種指定化学物質 (ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタート))
毒物及び劇物取締法	該当しない
化審法	優先評価化学物質 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)
船舶安全法	該当しない (ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタート))
海洋汚染防止法	X 類物質 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)
大気汚染防止法	該当する (ジブチルフタレート(ジブタン-1-イル=フタート))
水質汚濁防止法	該当する (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)

#### 【16. その他の情報】

主な参考資料	1) 化学物質総合情報提供システム	(独)製品評価技術基盤機構
	2) 許容濃度の勧告(2021年度)	産業衛生学会雑誌
	3) 既存化学物質安全性点検データ	日本化学物質安全・情報センター
	4) JIS Z 7252(2019) GHSに基づく化学物質等の分類方法	
	5) JIS Z 7252(2019) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法	ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

コメント	記載内容は現時点で入手できる資料, データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。新たな情報を入手した場合には、追加・修正を行い改訂いたします。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特別な取り扱いをする場合には用途・用法及び状況に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
------	---